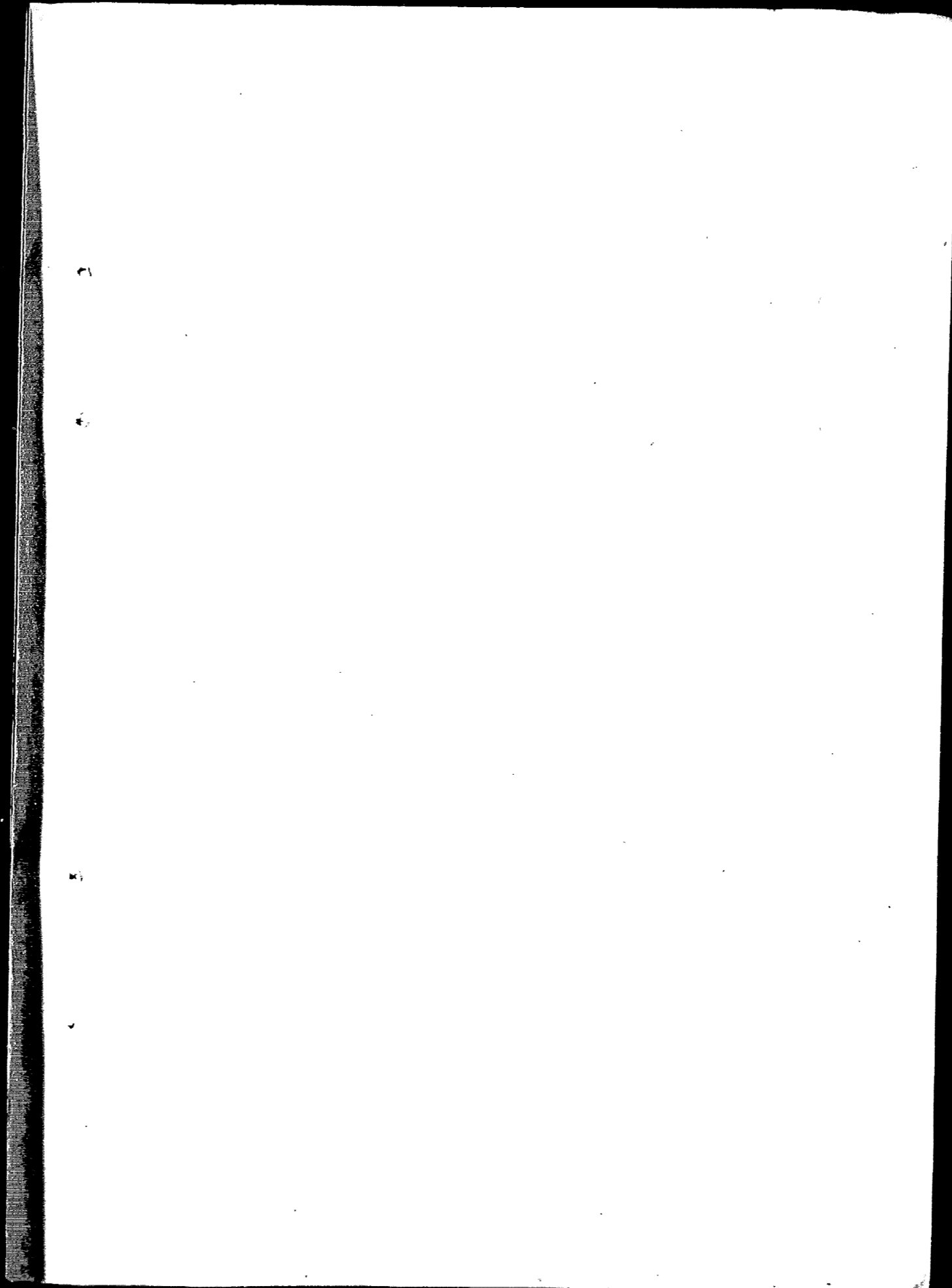




国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	15
	59-8



昭和十八年九月

勤勞行政・産報組織ノ
機能強化ニ関スル参考資料

大日本産業報國會
中央勤勞協議會

はしがき

本資料ハ中央勤勞協議會第二回總會
ニ於ケル表記議題ニ付東京・大阪・札幌
各地方勤勞協議會ニ於テ各委員ニ照
會取纏メタル意見ヲ集録セルモノナリ

勤勞行政・産報組織ノ機能強化方策ニ関スル件

一、勤勞行政

東京地方勤勞協議會

中央 一般ト厚生省各課間ノ連絡ヲ密ニシ其ノ簡捷化敏速化ヲ要望ス
地方 府縣廳内勤勞行政關係各課ノ連絡ハ大イニ密ニスル事ヲ要ス

勞政課、職業課、教學課等ノ内部的連絡ヲ希望ス

林務課、商工課等ハ工場トシテ困却スル事多シ

國民職業指導所ハ未ダ公營時代ノ弊ヲ脱セズ又人材少ク工場ノ最モ苦手トスル所ナリ之ガ英断的刷新ヲ要望ス

二、産報組織

大日本産報ノ機構ハ單位産報ニ知悉サレズ連絡上不便多ク模様ナリ

大日本産報國會現在ノ機構各局部等ノ擔當業務ヲ單位産報ニ明カニマラレ度シ

大日本産報又ハ府縣産報ヨリ單位産報ニ対スル反對給付也ニトノ一般ノ声ニ対シ其ノ

疑問ヲ解カレ度シ

大日本産報トノ間ニ判然セ又モノアリ殊ニ配給品等ニ於テ然リ兩者間ノ現在ノ關係及ビ將來ノ見通シヲ明カニマラレ度シ

三、住宅営団等

既ニ決定ヲ見タル厚生省割當工員寄宿舎ノ資材及ビ住宅営団決定ノ工員社宅ハ隘路等ク建設遅タトシテ進マズ工場ノ困難スル所洵ニ大ナリ特ニ住宅営団ノ如クハ一刷新ヲ要ス

二

水災模倣的ノ工場法等ノ如ク勞働法規ヲ一掃シ勤勞根本法ノ如ク皇國本然ノ法律ノ出現ハ誠ニ喜バシキ限リナルモ更ニ百尺竿頭一步ヲ進メ國民ノ三大義務ニ勤勞ノ義務ヲ加エテ四大義務クシメ以テ皇國勤勞觀ニ徹セシムベキデアル
コレニヨリ始メテ國民皆勤勞ヲ期セラルルモノト思惟ス

其ノ他氣付キタル英次ノ如シ

一、勤勞省ノ樹立

勤勞行政ヲ確立シ國民中一人ノ徒食者モアラシメザル如クスベシ

二、産業報國會トハ資本的ナリ宜シク勤勞報國會トシ國民ノ勤勞意欲昂揚ニ專念スベシ

三、産報内ニ福利、厚生ノ部内ヲ強化シ勤勞者ニ対シテノ知マテ賞及保全ヲ爲スベシ

イ、作業服、地下足袋、作業帽、作業靴、巻脚絆等ノ勤勞必需品ニ無切符特配ヲ爲スベシ

ロ、酒、煙草、菓子、果物、乾魚、肉類、砂糖、塩等ノ無税、原價特配ヲナスベシ

ハ、住宅、夜具等ノ確保ノ斡旋ヲナスベシ

ニ、全國ノ温泉、名勝ノ地ヲ産報ニテ統合確保シ之ガ利用ハ現在ノ如ク有産、有閑、階級ノ享樂ノ爲メニシメズ、ヨロシク勤勞者ノ褒賞、休養、療養、鍊成ノ地域タラシムベシ

三、全國ノ劇場、映画館其他飲樂場ヲ産報ニ於テ統合確保シ之ガ利用ハ勤勞者ノ褒賞慰安指導等ニ活用スベシ

三、

一、現今賃金統制令會社經理統制令ハ其ノ賃金給與統制ノ面ニ於テ齟齬ヲホシツツアリ即チ後者ハ財務行政上低物價政策ニ立脚シ前者モ亦之ニ立脚シタルモ其後勤勞行政ノ立場ヨリ改正セラレタリ故ニ同一工場ニ勤務シ一致協力職域奉公ノ誠ヲ致シ居ルモノニ前者ノ適用ヲ受クル者及後者ノ適用ヲ受クルモノノ二種生ジ若シテ其取扱ヲ異ニスルノ不合理ヲ生ジ更ニ重要事業場勞務管理令ニヨリ重要事業場ニ於テハ賃金統制ヲ緩和セラルルノ結果ヲ招来セリ

是ノ方面ノ統制ニ統一ヲ喫ヘ取扱ノ煩雜不公平ヲ除去セラレタシ

二、厚生省ハ現在ニ於テモ地域的特色ヲ考慮シ賃金統制ニ關スル一等地二等地ノ區別ヲ存続セシメツツアルモ之現下ノ狀勢ニハ適セザルモノト思考ス

三、当前ハ多数ノ工員ヲ擁シ其ノ人事事務タルヤ膨大ニシテ更ニ急激ナル情勢ノ変化ハ益々事務ヲ煩忙ナラシメツツアリ

改ニ總動員法ニ基ク申請並ニ様式ハナルベク之ヲ簡素化シ形式ヨリ實質ヲ主眼トシテ事務能率ノ増進ヲ計ラレタシ

又申請報告其他諸手續ニツキ度々不注意ノ爲其ノ形式ヲ過ル事アリ申請ナク次第ナレト官廳ハ常ニ濫費ヲ以テ處理セラレ事務進捗ヲ著シク遅延セシムル事ナク常ニ生産増強ニ協力セラル、採録通性ヲ持タレタシ

四、産報ヲ通ジテノ物資配給ニ対シ直接工同俾工ノ差別ヲ設ケラル、モ當所ハ所長以下全所一ハヲ基調トシ一致團結一見トナリテ生産ニ邁進致シ居ル現状ニシテ戦斗員非戦斗員ノ區別之無ク全員公平ノ取扱ヲナシ居ル状態ナリ故ニカ、ル區別ヲ設ケラル、ハ一致團結ノ精神ニモ反シ其ノ結果ハ芳シカラズト思考サル

四

褒賞制度ノ確立

現行褒賞制度ハ勤労顕功賞アリ文化勳章アリ一般論行功章アリ其他各種表彰アリ乱立

ノ憾ナシトシナイ

現時局ニ於テ褒賞ニ於ケル官民ノ差別國家褒賞ノ多様性ヲ存セシムルコトハ官尊民卑ト云フ以外諒解ニ苦シムトコロデアル

内地勤務、第一線勤務ノ差別ハ当然ナルモ、ソノ他ニテ民間人ト文官、文官ト軍人軍属ノ間ニ於ケテ差別ヲ一切撤廢國家即ち戦局ヘノ貢獻ノ程度ニヨリソノ功ヲ賞スベシ大臣ト大科擧者、大文豪ト優シタ工員トガ同様に褒賞サレルトコロニ褒賞ノ眞義が存スト思料ス

三、勤労行政ニ例外ヲ可及的少クスベシ

昨今配給品、時間措置、教育等々法規ニ依ラズシテ特定産業ニノミ例外ヲ認ムルコト多シ

特定産業ヘノ集中ハ勤労行政以外ノ行政分野ニテ遂行セラルベキニシテ勤労行政ニ於ケル例外ハ法規ニ依リ公示シテ後行ハルベキト信ズ之が違反ハ軍工場ト雖モ認ムベカラズ

最低保有平和産業ニ従事スル者亦戦力増強ノ戦士ナリ並督行政ヨリ指導行政ヘノ行マ

方ノ行キ過ギヲ恐レル

五

一、産業統制団体ト産報機関トノ連絡機構ヲ確立スルコト
産報運動ヲシテ強ク且実効アラシムル爲ニハ生産ニ直接関係マシムル力如キ運動ノ企
画トソノ效果ノ監査ヲナサシムルコト肝要ナリ此ノ意味ニ於テ本運動ハ工場ノ自主性
ヲ尊重シ工場ヲシテソノ実情ニ即シ且創意工夫ニ富ム企画ヲ樹立シシムルト共ニ外部
ヨリ右運動ヲ協力シ亦右運動力如何ニ生産増強ニ效果ヲ現ハシツ、アルマヲ査察シ之
ニ対シ各種勞務資材ノ優先的配給ヲナス等信賞必罰ノ体制ヲ確立スル方本運動ノ実効
ヲ期スル要諦ナリト信ス 之カ爲ニハ統制會及商工經濟會ノ如キ生産統制機関ノ首腦
部ヲ産報中枢機関ニ参画マシメ企画ノ樹立、運動ノ協力、監査等ニ當ラシムベキナリ
則チ

産報中央本部及地方支部ニ産業部別委員會ヲ設ケ右諸機関ノ中枢部ヲ参画セシメラレ
タシ斯シテ経営首腦部ヲ統制會等ヲ通シテ産報精神ノ理念ヲ浸透徹底化ヲ期セラレタシ

六

戦争ニ勝チ抜ク爲ニハ生産増強ニ一切ヲ集結セシムルコトデコノ爲ニハ現在ノ限アル資材、
勞力、設備ヲ無限ノ生産ニハコノ能率第一主義ニテ全産業人が全生命ヲコレニ打込込シテマ
ル人ノ力が必要デ、ココニ勤勞管理ノ要諦ハ創意ノ精神ト工夫ノ努力カ百パーセント以上
ニ躍動シナクテハナラヌ

産報運動モコノ点ニ主眼ヲ注イテ適確ナル施策ヲ樹テ実践ニ移シ能率第一主義ニ展開スル
マワ指導マネハナラヌ
ソノ施策ノ一ニハ

一、経営責任者ノ能力検討

経営責任者ハ自己ノ経営テナク國家ノ経営ヲ至上命令ニ依ツテ經營シテ居ルモノナル
ニ於テハソノ經營者ノ經營能力ナキ場合ハ國若ハ縣カソノ會社内部カラ經營能力者ヲ
簡拔シ經營的指導スルヲ可トス

（現今経営者ハ事変當初ヨリ見テ自由主義的ナ考ハ稀薄ニナツタマウナルモ未ダ自由主義的自己主義ノ脱却セザルモノアリ、斯様ノ單位産報会ハ成績擧ラズ）

三、中間幹部ノ鍊成

産業人カ心ヲ常在戦場ニノ鉄石ノ氣魄ヲ以テ産業報國精神ヲ把握実践スルニハ先ツ後付工員以上ノ中間幹部ニ其ノ人ヲ得ルコトが必要デコレハ常ニ單位産報、都廳府縣産報及産報本部ニ於テ劃一的ニ鍊成計劃ヲ樹テ之ヲ実施シ優良者ヲ重要ポストニ簡拔シ他ノ工員ヲ積極的指導ニ當指進セシムルヲ可トス

三、生産増強ノ面ニハ窮極スルトコロ皇國勤勞觀ニ燃ヘ夕灼熱ノ精神ヲ把握セシムルヲ第一義トシテ生産戦ニ精神セシムルモ、ソノ反面ニハ指導者ノ「心ノ潤ヘ」ト「物ノ潤ヘ」即チ親心ヲ持ツテ産業人ヲ迎ヘルコトが必要デアルト思フ、ソレハ親ガ子ニ対スル親心ハ「心ノ潤ヘ」デ物ノ潤ヘハ賃金、物資ノ配給デアル

賃金ハ法ヲ認メテ最高ノモノハ稼働率ニ平行シテ支給シ物ノ配給ハ之亦法ノ許ス範圍ニ出素ル大必需物資ヲ配給シテマルコトデアアル

七、

一、勤勞行政ノ一元化即チ法令ノ整理改廢及所轄官廳ノ統一並ニ報告文書、手續等ノ簡易化ヲ速力ニ実施スルヲ希望ス

二、従業者ノ移動制限ノ強化及悪質急業者處罰解雇規定等ノ制定

三、産報本部実践局内ニ訓練部ヲ設ケ連続的ニ全會員ノ訓育ヲ実施スル事

同時ニ勞務管理ノ実務指導部ヲ常置シテ軍隊ニ於ケル教範、内務書ノ如ク規程ヲ作成シ実地指導ヲ行フコト

四、産報ノ部隊組織ヲ更ニ檢討シテ其ノ大小ニ依リ三種類位ニ区分シ全國ニ普及徹底セシメ産報運動ノ活動ヲ活潑ナラシムルコト

八、



徵用ノ場合又ハ就職ノ斡旋等ニ際シ官廳ニ於テハ本人ノ職業撰択勤務地等ノ希望ニ對シ深ク強ク之ヲ考慮スル事

六、産報ノ末端指導機關ノ充實ヲ計リ之ヲ指導者ニ有能鍊達者ヲ任用スル事

九、

- 一、少クモ生活必需物資就中食糧品ニ付テハ超量生産業方面ト然ラサルモノトノ配合格差ヲ金應セラレタシ、尚生活嗜好品中酒、煙草ニ付テモ同様御配慮乞フ
- 二、右ニ関係シ新聞、雜誌等ニ於ル採査的記事ノ徹底的取締ヲ希望ス
- 三、勤勞新体制ノ裏打トシテ企業新体制ノ即時強力展開ヲ熱望ス

一〇、

六、勤勞行政ノ一元化

- (1) 賃銀統制令ト會社經理令トノ調整均衡一元化
- (2) 青年學校ト技能工養成所トノ一元化
- 三、物資配給ニ縣毎ノ不均衡及職員ト勞務者等ノ不均衡ヲ弭事
- 三、事務ノ簡素化

一一、

- 一、産業報國令ノ組織ハ産報會員ノ實際生活ト切リ離ス事ノ出未又位深入リスル必要ハナカ
- 二、ソノ爲ニハ單位産報支那カ産業戦士及其ノ家族ノ日常生活必需品ハ米麦、穀物等ノ食料、作業上必要ナル物資ノ配給機例ヲモタズバナラヌ
- 三、此ニ一歩進メテ言ハバ配給ノ制限、増配等ノ権限ノ一部ヲ委任セラルル處迄行ク可キテハアルマイカ
- 四、一例ヲ言ハバ重筋勞働者ハ食糧不足ノ爲ニ現在ノ配給米ハ一日四合ナルモ在来ハ八合喰ベテ居タ
- 五、職場ヲ休ンデ農家ノ手傳ニ行キ賃金ノ代リニ米麦其他ノ食物ヲ貰ツテイル

一 單位産報支部ニ食糧ノ配給ヲ許サレタトシテ欠勤ミタ者ニハニ合セウノ米シ力減サズ、出勤ミタ者ニハ六合液スト云フ如キ権限ガ支部長ニ委任サレテアルトスレバ欠勤防止ニモナリ、又受クル方モ納得スルト思フ。

二 産報ト統制會トノ連絡ヲ執ツテ頂キ度イ。

一二

一 産報會ニ於テ生活必需品ノ配給ヲ爲スコトハ適當ナラズト認ム

二 産報會ノ未端配給機構ニ於テ往々不正ヲ働ク虞ナシトモズ斯ル不祥事ノタメ産報會ノ威嚴ヲ失墜シ又ハ産報會ニ対スル信頼ノ念ヲ減殺スルが如キコトアレバ遺憾ナリ

三 産報會ノ官僚的指導ヲ避ケラレ度

四 産報會會社本部ヲ活用セラレ度

五 農ニ主要會社ヲ指定シ會社本部ヲ設置セラレタルモ其ノ後該會社本部ニ連絡セラル、コト殆ンドナシ

一三

一四

四 各單位産報會ニ対スル一率ノ指導並一率ノ事業実施ヲ強要セザルコト

往々ニシテ單位産報會ノ実情ニ即セザル事業ヲ強要セラル、コトアリ

一三

最近産報モ終足當時ノ如キ強切ツタ元氣ヲ失ツタ様ナ感じガスル。本部モ地方産報モ職場ノ會員ト遊離シテボールノデハアルマイカ。時ニハ物資ノ斡旋ガ産報ノ仕事ノ樞ニ誤ラレテハ斗ナイガラウカ。最近産報ノ懇談会ヲマラナク共、本部モ地方産報モ單位産報ニ対シテ何モ云ハナイトミハテ、筆者ノ属スル分會ナドハ昨年ハ一回ノ懇談会モ開カズ、本社マ本社支部デハ

一回ノ懇談会モ開イテ再ナイガ、コレデヨロシインダラウカ

コレデハ産報モイ、加減ナモンダト思フ。機構ガ如何ニ立派デモ中味が斯様デハ心細イ限リガ、勤労協議会ニシテモソウダ、形式ケ整ヘテモ仕事モミナイ名前夫ノ委員ナラ無イ方ガヨイノデハアリマスマイカ、折角決定シタ委員デモアルカラ此ノ際何カ有効ニ利用スル途ハ無イモノデセウカ

コノ際是非改正願ヒ度イノハ、職場ハ神樂坂、丸ノ内、早稲田ソノ他各警察署ノ管内ニ在
リテラ、分会ノ事務所ガ戸塚署ノ管内ニアルト云フ理由デ、戸塚産報支部ニ属シテ平ルタ
メ、何カニ付ケテ不合理マ不便ト事ガ多イ、一般ノ関係ハ所轄署ニ属シテ非テ産報ノミガ
何ノ因連モナイ方ノ支部員デアルコトハ全クソレ大デモ合理性ナク、却ツテ迷惑スラ感ズ
ル、是非御一考ヲ願ヒ度イ

一四

二、女子ノ徴用実施ヲ要望

現決戦下ニ於テ女子ノ勤労働員ハ愈々重要性ヲ加ヘ男子ニ伍シテ各職場ニ進出シアル
ヲ以テ其ノ輔導並ニ教養ニ付テハ重負ヲ置キ従来ノ如キ收入ニ拘泥マル職業感ヲ一擲
シ女子産業人トシテ國家的使命ヲ認識シ確固タル皇國勤勞觀ヲ把握シ以テ生産増進ニ
努メシムルコトハ緊急ノ要事ニシテ殊ニ第一線ノ戦闘益々峻烈ヲ加ヘ未曾有ノ男子第
一戦動員ノ要緊迫セル今日女子徴用ノ必要ヲ痛感スルモノナリ

一五

- 一、單位産報ノ總懇談ヲ諮問機関ヨリ決議機関ニ移行スベキ事
- 二、産報支部最高役員中ニ事務者ヲ取入ル、事
- 三、同一工場内ニ於ケル下請業者ノ僱用人ニ対スル不当賃金支拂ヲ取締ル事

一六

産業報國青年隊組織ニ就テ

一、産業報國青年隊組織要綱ニ基ク二十五才以下ノ男子會員五十名以上ヲ有スル單位産報會
ニ於テハ産業報國青年隊ヲ組織スルコトトアルモ右會員一千名以下ノ單位産業報國會ニ
於テハ必要ナシ

理由

最近ニ於ケル工場従業員タル産報會員ノ平均年齢ハ非常ニ若ク當会ノ如キハ二十一才カ平均年齢ナリ

産業組織ト事業場ノ生産組織トノ表裏一体性ノ確立ヲ期スベキ横及縦ノ職制区分ニ依ルビラミツト型ノ基本組織中ニハ三分ノ二又ハ四分ノ三ニ相当ル青年隊員ヲ包含シ最下部單位ノ五人組ニ於テモ右青年ヲ当然包含シアリ

産報青年隊ヲ結成シテ將來之ヲ産業報團運動ノ推進力トシテ指導育成セントスル狙ハ即チ茲ニアリト思料スルモ實際青年隊ヲ編成シテ産業報團青年隊事業細目ニ依リ事業ヲ爲サントスレバ職場ヨリ青年隊員ノミヲ抽出スルコトトナリ職場ハ之レガ爲急激ニ減員セラレテ即チ三分ノ一或ハ四分ノ一ノ會員ヲ残存マシムルノミニテ残存會員ハ非常ナル寂寞ヲ感シ張弓ノ拍レタル如ク寸前昂揚ニ居リタル意氣面チニ消沈シ能率ノ減殺ヲ未ス現況ナリ

其ノ際産報部隊組織ヲ活用スヘキ事態發生シタル場合ハ既ニ組織体ハ大ナル凹凸ヲ未シ在リテ圓滑ナル運営望ミ難シ

三、青年學校トノ関係

産業報團青年隊組織要綱ニ依ル第一節即チ二十才以下ノ隊員ハ殆ト青年學校生徒ニシテ教學ノ目的トスル所産業報團青年隊ノ目的ト多少配字ヲ異ニスルモ同一ナリ 青年隊ヲ職場中心組織トシテピラミット型ノ隊ヲ編成スルトモハ青年學校生徒ハ既ニ学年別ニ編成シアル関係上編成ニ當リテモ不便且ツ混乱ヲ未ス虞アリ而シテ青年學校トシテノ行事ノ場合ハ青年隊ノ活動ハ中止ノ余儀ナキニ至リ青年隊ノ行事ノ場合ハ青年學校ハ總テノ点ニ於テ中止ノ已ムナキニ至リテ兩立マス結局ニ免ヲ追ツテ一免ヲ獲サル憾ナシトセス

以上ノ如クニシテ結局産報會員一千名以下ヲ抱擁スル工場事業場ニ於ケル産報会ニ於テハ基本組織タル部隊組織ノ一本立トナシ他ハ青年學校ニ委ね而シテ一人ニシテ生徒タリ青年隊員タリ最下部五人組ノ一員タリ等ノ数人格ヲ附與セシムルカ如ク兼テ遊ケ一面之ニ依ル人約及時間的ノ合理化ヲ計リ以テ一員ニテ生産面ニ邁進セシムルコト力國家的見地ヨリシテ有効ナリト思料ス

單位產報ノ機構整備ト運営方針

一、單位產報機構ノ整備確立ノ焦点

何レノ会社工場ニ於テモ大々傳統ト歴史ヲ有スルコトハ当然ナリ。從ツテソノ機構モ工場自体ノ職制ト傳統歴史ニ立脚セル眞ニ運営ニ易キ基礎ノ上ニ確立スルコトハ勿論職制上ノ不備無氣力ヲ產報ソレ自体ノ有機的運営ニ依ツテ補強シ、工場経営ヲ至勤勞管理ノ綜合的理想境ヲ誘導スルコトガ產報機構整備確立ノ狙ヒ所デアラネバナラヌ。斯カル観点ヨリスル時、產報機構ハ本部機構ト支那機構ノ二ソノ機構ニ大別シ、本部機構ハ企画、立案、指導ノ中央集權的機能トシテソノ推進的偉力ヲ發揮ヒシメ、支那機構ハ本部ノ指令ヲ奉ジ、又ハ支那(職場)独自の計畫ニ基キ飽迄忠實ナル實踐機關トシテ全面的產報活動ノ展開ヲ期スルニアリト信ズル。

元來產報機構ハ「職制即產報」ト稱サレ、飽迄表裏一体ノモノデナケレバナラヌト唱導セラレ居ルモ、之ハ頗ル意味深長ナ言葉ナリト思フ。

職制ト產報トノ機構が同一ノモノニテ、然モソノ職制が完璧ノモノデアルトスルナラ

ハ職制がアレハ產報ノ機構ハ敢テ必要トスルモノデナク、寧ロ屋上屋ヲ重ネテ徒ラニ事務的煩些ヲ加重スルニ過ギヌ。

產報機構が職制上ノ機構ト飽迄表裏一体タルヲ要スルコトハ前述ノ如ク職制上ノモノニテ能クシ得ガル面ヲ立場ヲ替ヘテ異ナレル角度ヨリ同一職場ノ管理責任者ヲ通ジテ職制上ノ力ヲ補強シ勤勞管理ノ全的效果ヲ發揮セシメル所ニ產報運動ノ眞ノ使命が存スルモノナリ。

職制上ノ力ヲ以テ一ニモ生産、二ニモ増産ト云フ行々方々熾リ立テ千變一律ニ勞働強化ヲ強ヒルノミニテハ一時のニハ鬼ミ角トシテ決シテ永續可能ノモノデハナイ。ソコデ別ノ面カラ生産力ノ増強ヲ永續強化セシメル様ニ指導者ハ自ラ率先範陣頭ニ起ツテ產報精神ヲ鼓吹スルト共ニ或ハ溢イ手ヲ差ミ延バテ慰勞シ鍊成シテこそ戰時下皇國勤勞觀ヲ目ツト体得ミ初メテ表裏一体ノ眞髓ヲ發揮シ得ルモノト信ズル。

然ルニ職場ノ係員又ハ管理指導ノ責任者ハ常ニ自ラノ指導方針ヲ以テ事足レリトナス弊風ガアルガゴノ進歩ナキ漫然タル指導態度コソ一掃セシムベキ所ニシテ茲ニ本部機關ノ透徹セル指導力ト誘導力ノ必要ガ生ズルモノナリ。從ツテ產報運動ノ最高責任

者ハコノ核心ヲシツカリ把握シテソノ実情ニ即シタ機構ヲ整備確立シ運営スルニアラザレハ産報運動ハ常ニ閉店休業ノ域ヲ脱セズ常ニ無用ノ長物トシテ厄介視セラル、所以ナリト思ハル

産報機構ノ編成ト運営

ソコデ産報機構ノ編成ニ当リ本部並ニ支即機構ハ左ノ如ク構成運営スルヲ理想ト思ハル

(イ) 本部機構ト其ノ運営

本部ハ産報運営ノ指導命令権ヲ掌握スルモノナレバ、本部懇談会ノ構成員ハ会長、副会長以下必要欠クバカラザル会社ノ幹部ヲ網羅シ、又工員側ハ工員ノ代表トシテ飛ミカラザル而モ自己ノ意見ハ卒直明快ニ堂々ト吐露シ得ル人物ヲ各職場地ニヨリ社員側ト略々同数ノ者ヲ選出シテ構成シ本部懇談会ニ於テ決定セラレタル事項ハ直ニ産報運動推進ノ最高指標トシテ強力ナル命令権ヲ以テ発動セシメルノデアアルカ、ル観点ニ立脚シテ本部懇談会ヲ構成スルトモハ産報本部懇談会ハ即チ職制上ノ最高審議機関トナリ産報ト職制上ニ起リ得ベキ種々ノ摩擦ヲ解消シ、眞ニ産報運営

ヲシテ会社経営ノ母体タラシム得ルノデアアル

次ニ産報本部ノ統一的鍊成、集団訓練、事業活動ノ企画実践、産報事務ノ迅速処理実践機関トシテ

- (一) 青年部又ハ青年隊
- (二) 壮年部
- (三) 女子部
- (四) 事業部
- (五) 技能部
- (六) 会務部(事務局)

ヲ設置シ青年部ハ全ノ軍隊的編成ニ基キ青年部ノ下ニ副部長、大隊長、中隊長、小隊長、分隊長ヲ置キ所屬隊員ノ創意ヲ生カサシムルト共ニ大同團結セシメテ盡忠報國ノ氣風ヲ涵養シ集団的統一訓練ヲ施スヲ以テソノ使命トナスベキデアアル

又青年部員中二十才未満ノ者ガ多キトモハ青年学校ノ訓育ト密接ナル連繫ヲ保ツ必更アルタメ青年学校長ヲシテソノ部長ニ当ラシムルヲ以テ理想トナス

イツレニシテモ現在ノ工場ノ原動力ハ青少年ノ活動ニ俟ツベキモノ多ク以テソノ指導運営ニハ万全ヲ期シ厳正ナル訓練ニ高潔ナル人格ノ陶冶ト更ニ時局ノ正確ナル認識ヲ指導理念トシ他面歡喜ト希望ヲ持タシメ体力ノ増強ニ細心ノ注意ヲ注グベキモノト信ズル

次ニ壯年部ハイツレノ工場ニ於テモ青少年ノ指導的役割ヲ果スベキ地位ニアルモノナレバ先ヅ青少年善導ノ不可欠要件タル良ク且良キ職場環境ノ醸成ニ努力シ率先重範戰時意識ニ目醒メタル良心的自覚ノ下ニ行動セシムルト共ニ壯年者ニハソノ命令層ニ相応シキ指導訓練ヲ施スヲ要ス又壯年者ハ職場以外ニ家庭ヲ形成シ國家的ニハ銃後守護ノ大任ヲ負荷セラレタル者故ソノ指導ニ當リテハ是等ノ特殊事情ヲ考慮シ單ニ精神的指導ノミナラス或ハソノ家族ヲ工場ニ招キテ慰安シ或ハ物負的方面ニ於テモ物負ノ配給等出来得ル限りノ努力ヲ拂ヒ以テ思想動搖ノ根源ヲ支除シ守ビテ大義ニ就ク悠久ナル思想ノ確立ニ邁進スベキモノト思ハル

次ニ女子部ハ勤勞意欲ノ向上或ハ勤勞秩序ノ確立ヲ計リテ生産増強ニ歡喜力行セシムル外將來家庭ノ賢母トシテ子弟教育ノ重大責務ヲ負フモノナレバ青少年・壯年ノ男子トハ別個獨特ナ指導訓練ヲ施シテ婦徳ヲ涵養シ以テ國力ノ培養ニ資スベキモノト思ハル

事業部ハ体育錬成会、勤勞文化向上委員会、安全委員会、國民貯蓄組合、金融（共済会）修練会、軍人援護会、防護委員会、資材愛護委員会、食堂委員会、家庭生活刷新委員会、作業改善能率増進委員会等ヲ統割セシメテ工場ニ於ケル基本的事業活動ノ全面的展開ニ遺憾ナク様万全ヲ期スベキモノト思ハレル

又技能部ハ技能ノ改善ヲ計ルタメニ相互啓発ヲ行ヒ或ハ種々ノ方法ヲ考究シテ技能ノ進歩向上ニ資スルト共ニ時トシテハ技能競練大会等ヲ舉行シテ全体的ニ技能ノ水準ヲ高ムル様努力セシムベキト思考ス

次ハ会務部デアルガ之ハ産報事務局ニ該当スルモノニシテ産産運営ハ勞務管理機構ヨリ遊離スルトキハ実行力ノ大半ヲ失フノミナラス勤勞部又ハ勞務課ト対立シテ二元的指令ヲ發スル懸念ガアルノデ勤勞管理機構中ニ之ヲ包含設置シ勤勞管理ノ担当ノ長ヲシテ会務部長（又ハ事務局長）ヲ兼任セシメ能迄居齒輔者ノ關係ヲ助長セシムルコトガ肝要ナリ

又会務部ハ本部ノ審議決定事項ヲ実践機關タル支部又ハ職場ニ司令シ移行スルト共ニ複雑ナル事務処理ニ万遺憾ナキヲ期スベシナリ

次ニ本部各部長及副部長ノ銓衡方法アルガ部長ハ現場ニ於テ最も有力ナル部課長ヲ以テ之ニ充テソノ部長ニ配スルニ副部長ハ工員ノ側ヨリ之ヲ任命シテ職制上ハ係員ノ下位ニアル工員ト雖モ産報機構ノ上ニ於テハ社員ト工員ノ差別的階級觀念ヲ除去スル意味ニ於テモ工員ヲ以テ之ニ充テルコトハ運営ノ妙ヲ發揮スルニ役立つモノノ如ク思考セラレル

(四) 支部(職場)機構ト其ノ運営

支部(職場)機構ハ本部機構ノ指導下ニ隸屬スル実践機關ニシテソノ構成ハ支部長、副支部長ヲ置キ更ニソノ統率下ニ青年班長、壯年班長、事務班長及各副班長、委員ヲ任命シソノ大同団結ト実践活動ニ便ナル様ニ構成スルヲ要ス

正社ニ於テハ支部機構ノ構成ハ職制上ノ職場ヲ一單位トシ又事務課ハソノ一課ヲ以テ一單位ヲ構成セシメテソノ支部ノ統制ヲ最も易キ様ニ之ヲ仕組ミ社員工員ノ區別ナク上下一体トナリ支部長ノ命令一下職域奉公ニ挺身セシムルト共ニ体育錬成

三五
三六

福利厚生、出征支部員ノ軍事看護、表彰処罰或ハ勤勞奉仕、家庭訪問、支部單位ノ

説明考案ノ奨励等々活潑ナル活動ヲ展開セシムルモノナリ 而シテ五人組ノ如キ小單位ノ活動体ノ編成ハ支部会員ノ大同団結完成後ニナスヲ以テ理想トシ然ラザルトモハ職場全体ノ有機的運営ヲ妨カル懸念ガ多分ニ存スルモノノ如ク思考サル

更ニソノ役員ノ任命ハ支部長ハ職場又ハ事務課ノ長ヲ以テ之ニ充テ副支部長ハ工員ヲ以テ之ニ任命シ、社員ト工員ノ差別的觀念ヲ除去セシムルト共ニ班長、副班長、委員ハソノ支部ノ実情ニ応ジ社員又ハ工員ノ有力者中ヨリ之ヲ任命スルヲ以テ理想的ト思ハル

茲ニ於テ支部ハ産報運営ノ実践的活動体トナリ支部活動ノ円滑ナル遂行ニ当ルト共ニ支部相互間ハ隘リニ横ノ聯絡ヲ付ケシメズニ等口競争的地位ニ置キ支部旗ノ名譽ニカケテ産報運動ノ推進ニ挺身セシメテ工場全体ノ群衆心理ニ依ル附和雷同ヲ防止スルガ賢明ナリ

又支部ニ青年班、壯年班、女子班ヲ設置スル所以ハ本部ノ青年部、壯年部、女子部ニ対スル系統的連繫機構ヲラシメンガためノモノナルモ住々ニシテ壯年者ハ青少年

及女子ノ無視圧迫シテ自己ノ我儘勝手ノ意見ヲ強調スル傾向ガアルカスル思傾向ハ極力排除シ青少年及ビ女子ノ主張ハ聲口之ヲ尊重シテ下意上通ヲ計リ職場生活ニ生々生々トシタ希望ヲ指タシメテ支部内ノ統制團結ヲ容易ナラシムシガ爲ニ特ニ各年令層ノ男子班、女子班ノ設置ヲ必要トスルモノナリ

又支部ニ事務班ヲ必要トスル所以ハ本部ノ指令ノ受理機関トシテ必要ナルハ勿論本部ノ会務部ニ匹敵スル機関トシテ支部長ヲ輔佐シ支部長ノ命ヲ受ケテソノ支部内ノ事務的処理ニ遺憾ナキヲ期セシムルタメナリ

支部ノ懇談機関トシテハ常会ヲ設置セシメテ一月一回以上支部常会ヲ開カシメソノ出席者ハ支部長、副支部長、各班長、各委員ノ外組長、職長等ヲモ出席セシメテ意見ノ疎通ニ全キヲ期スルト共ニ上意下通、下意上通ヲ計ラントスルモノナリ
次ニソノ運営方法ナルガ本部各部ハソノ事業計画ヲ本部懇談会ニ提出シテ協賛ヲ経タル上各部独自ノ見解ト立場ニ於テ事業ノ遂行ニ当ルガソノ場合支部事業計画ニ抵触セザル様ニ支部独自ノ立場ニ於テ実施シ易キモノハナルベク支部ヲシテ実施セシメ又ソノ実施日時等モ本部ト支部トが重複セザル様本部ニ於テ之ヲ適宜ニ調整ス

ベキモノナリ

之ヲ要約スルニ本部各部ノ事務傳達ノ代行機関タル会務部ハ支部ノ事業活動ヲ極力援助スルト共ニ本部ト支部トノ連絡ノ緊密化ヲ計リ産報活動ノ全面的進展ヲ計ルハ勿論時トシテハ各支部活動ノ怠慢ト懈怠ノ防止スル意図ノ下ニ事毎ニ本部ニ依存セシムル様ニ仕向ケ本部ヨリノ遊離ノ防止ニ努ムレコトモ肝要ナリ

又本部関係ニ於ケル支部活動項目ノ主ナルモノハ本部ノ指令下ニ産報精神ノ昂揚ヲ計リテ生産力ノ増強ヲ計ルト共ニ支部内ノ統制力ヲ強化シテ生産活動ノ進展ニ寄與スル外物資配給ノ補助金、体育奨励費、吉凶禍福ノ贈與金ノ交附ヲ会務部ニ申請セシムル外、毎月ノ支部活動状況ヲ報告セシメテ会務部ハ常ニ状況ヲ査察シ活動状況ノ報告ヲ怠ル時ハ凡テノ配給品、交附金ヲ停止シテ物心両方面ニ於ケル強力ナル干渉ヲナス様ニ仕組ム必要ヲ認ムルモノナリ

(ハ) 懇談会ノ種類

懇談会ハ本部ニハ既ニ前述セル如ク本部懇談会ヲ置キ一月一回以上ヲ開催シ、又一年ニ一回ハ總會ヲ開催ス。

又各都道府八年以上ノ例會、年八回以上ノ委員會ヲ置キ、支部ニハ支部常會ヲ毎月一回以上、總會八年一回以上必ズ開催セシムルト共ニ支部相互ノ横斷的連絡機關トシテハ支部連絡會議ヲ年五回以上開催セシメテ下カラ盛リ上ガルカ及ビ意見ハ本部懇談會出席役員が夫々ノ地区ヲ代表シテ上申提議シ、或ハ隨時直接會務部ニ申達セシメテ會務部ハ各部各層各支部ノ意見ヲ取纏メテ本部懇談會ニ議題ヲ提出シテ審議檢討スベキニモテ苟モ下部會員ノ意見ヲ聞カラ聞キ難ルガ如ク抹殺的態度ハ指導者ノ嚴ニ慎ムベキ所ナリ

三、最後ニ産報機構ノ円滑ナル遂行ヲ期スルニハ産報ノ會計ハ会社ノ會計トハ独立セシメテ一定ノ予算ノ下ニ事業計畫ヲ行ヒ他ノ束縛ヲ抑制スルコト肝要ナリ

次ニ産報本部ニハ他ノ仕事ヲ兼務セシメザル會務部又ハ事務高専門ノ事務員ヲ設置シテ總對ニ事務ノ滞滯ヲ防止スル様、寧ロ積極的ニ本部各都府及ビ支部活動ノ援助促進スル様ニ努ムルヲ要ス

ソノ専門ノ事務員數ハ一〇〇人以下の會員ヲ有スル工場ハ三人、一〇〇人以上三〇〇人以下ハ五人乃至六人、三〇〇人以上五〇〇人以下ハ八人、五〇〇人以上七〇〇人以上ハ

一〇〇人以上ハ十二名、一〇〇〇人以上程度ノ大工場ハ最少限度十四、五名ヲ要スルモノト認ム

一八

現在ノ産報ガ大工場ニ對シ指導力ナキコトハ常ニ各方面テ耳ニスル所ナリ、現在ニ於テハ大事業者側ヨリモ有力ナ勤協等ニ加ハリ協力支援シ居ルモノ、右ノ事實ハ仲々改善出来ヌ改善出来ヌ理由ハ種々アランモノツハ高キ所ヨリ指令ヲ發スル如キ態度ガ事業者（殊ニ大規模ノ）ノ自主性ヲ損ケルコトニツニハ地方支部（實際ニハ警察機關）ガ官僚的ニ本部ノ指令ヲ工場ニ押し付ケルコトニアリ

右ハ感情的ニ良キ結果ヲ齎ストカ齎ラサヌトカト云フコトハ別トシテ兎角大工場ニ於テハ其ノ指令ノ内容ガ今更ノ感動カラザルモノノ換言スレバ工場ノ方針施策一步前進シ居ルモノ多クアルト同時ニ工場ノ実情ニ必ズシモ即セザル場合亦度々アルガ爲ナリ、然ルニ東京勤協ノ勤勞根本法制定ニ關スル意見中ニモ「教養訓練及厚生施設」ハ經營者ガ之ヲ爲ス義務アリト認め居ル如ク之等施設ハ事業自体ガ國家性ヲ充分ニ有ツコトガ愈明確



トナツタ今日當然ノコトト云ヒ得ベク、別言スレバ現在ノ産報運動ノ対象トナルベキ事業
殆ンド全部経営者が行フベキモノデアル以上経営体ニ所謂表裏一体ノ産報組織ハ必要ヲ
アリ即單位産報會ナル別個ノ組織ハ要ナク其ノ事業ハ経営者ガ之ヲ行フベキデアルトモ考
ヘラレル

以上現在ノ産報ノ運動ニ缺陷アリ而シテ産報ノ内容トスル事業ガ経営者之ヲ行フベキモノ
トスレバ此ノ際産報ノ組織ハ再検討ヲ要スト思フ乍併産報ノ行フガ如キ事業ハ経営者トシ
テ益々完備遂行スル要アルハ勿論ナル故之等ノ事業ノ発達ヲ計ル目的トスル各會社工場
参加ノ聯合体ヲ地方及中央ニ設ケテハ如何カト思フ然ラバ産報組織ハ現在ノ近トナル感ア
ルモ却ツテ會社工場ノ自主性ヲ發揮シ下ヨリ盛上ルカモ生レハセ又カト思フ

（以上ハ必ズシモ中小工場ニモ一律ニ及ホセ又點ガアルカモ知レ又ガ左レバト云ツテ重要
ナル大工場ニ對シ現在ノ儘放置スルコトハ出来又ト思ハレル中小工場ニ付テハ別途ニ考
ヘルコトモ可ト思フ

亦以上ノ如キコトヲ言ツタカラトテ今日迄ノ産報ノ功績ヲ多トセ又意味テハナイ

三一

三二

一、給與ノ問題

1. 家族手當、特殊作業手當、稼働率及能率増進ノ爲ニスル手當等最近ノ賃金ハ恰モ手
當ニヨク成立セルカガ如キ感アリ、此ノ如キハ徒ラニ事務煩雜化シ而モ能率ヲ擧グル
所以ニ非ルヲ以テカ、ル手當ハ速カニ本給ニ包含セシムル事

2. 經理統制令ニハ種々不備不都合ナル點アリ之ガ改正ヲナス事

(1) タイピスト、給仕、小使、守衛等ハ凡テノ會社ガ從來職員トシテ取扱フニ不拘經
理統制令ハ之ヲ工員ヲ對象トセル賃金統制令ニ依リ規制セシムル、而法令ハ根本
的ニ給與形態ヲ異ニシ而モ一方ハ大藏省一方ハ厚生省ノ所管ナル爲官廳相互間ノ
連絡ナク之ガ事務ハ極メテ複雑ナリ

(2) 未ダ今日ノ企業ノ性質ヨリ會社ガ自己ノ計算ニ於テ企業ヲ經營スル以上其ノ成績
ノ如何ニ依リ或ル程度ノ給與ノ厚薄ヲ來スハ當然ナルニ不拘統制令ニ於テハ之ヲ
一律的ニ取扱フコトハ個人ノ創意工夫ヲ生カス所以ニ非ズ、小クトモ重點産業ニ

對シテハ當分ノ間特例ヲ認ムル事

二、物資ノ問題

1. 現在勤勞者ニハ作業用必需物資並ニ生活用必需物資ノ一應ニ對シテハ、尙ハ不足ノ爲受ク、不賃不抄少クザル次第ナレドモ尙一般家庭生活ニ於テハ、配給物資ノ不足ノ爲受ク、不賃不抄少クトモ勤勞者ニ關スル限り最小限度ノ生活必需物資ヲ供給シ、其ノ中ニ重要物資ノ勞力、費用ヲ軽減シ、絶對的ニ確保スル事

2. 重要産業ニ從事スル職員ヲ物資特配ヨリ除外セザル事少クトモ勤勞者ト區別困難ニシテムシ口勞務者ヨリ收入少キ下級職員ニ付テハ特別ノ考慮ヲ拂フ事

3. 勤勞者ニ對スル物資ノ特配ヲ恒久化スル事

三、住宅ノ問題

1. 寄宿舎ノ建設ニ付テハ厚生省ニ於テ毎年事業主ノ申請ニ基キ割當ヲ決定シ、其ノ建設資材ハ物動計畫中ニ入レ配給ヲ確保スル方途ヲ講ジツ、アルモ現品ノ入手ハ甚ダ困難ヲ極メ、現ニ十七年度ノ割當資材ノ如キ殆ンド全部未入手ニシテ、今以テ解決ノ見込立たズ、此ノ如キコトナキ様特別ノ考慮ヲ要スル事

三三

三四

2. 勞務者住宅ノ建設ハ住宅管團ニ於テ爲ス事トナリ、居ルモノ一向建設進捗セザルヲ以テ、資材ヲ確保スルト共ニ是ガ建設ハ事業主自体ニ爲サシメル事

3. 遊休施設並ニ時局下整備スベキ料理屋、待合、遊廊等ヲ勞務者ノ寄宿舎トシテ活用スルコトハ資材逼迫ノ折柄最モ妥當ナル措置ト考ヘラル、モ不動産價格統制ノ不備、改修資材ノ割當ナキ爲實現困難ナリ、至急不動産價格ノ統制ヲ完備シ改修資材割當ヲ考慮スル事

4. 防空對策トシテノ人口疎散問題ト併行シ、都市ニ在住スル恩給生活者其ノ他勤勞セザル者ヲ強制的ニ田舎ニ移轉セシメ一般勤勞者ノ住宅難ヲ緩和スル事

四、産報ノ問題

1. 勤勞者ガ國家ノ安危ヲ左右スル重大責任ヲ有スル今日勤勞階級ノ有スル抱負、経倫ヲ無視セル政治等有り得ヌ、大日本産業報國會ハ大政翼賛會ノ一翼トシテノ活動使命ヲ有スル以上モツト積極的ニ勤勞者ノ意見、抱負、経倫ヲ政府ニ傳ヘ以テ下情上通ノ途ヲ請ムル事

何トナレバ目下勤勞者ノ

勤勞意欲ハ相當昂揚サレ居ルモ此折角昂揚セル勤

労意欲ヲ刈取ル如キ不詳事ガ多救飛生シツ、アリ、カ、ル問題ヲ除去スルハ政治ノ分野ニ屬スル、又個人的勤労意欲ヲ結集シテ之ヲ國民的カトシテ戦力増強ニ直接的ニ如何ニシテ寄與セシムルカモ是又政治ノ分野ニ屬スルヲ以テナリ

2、産報ハ現在膨大ナル組織ト陣容ヲ要シ理念的形式的ニハ非常ニ整備シ居ルモ其ノ實質的活動ニ至リテハ遺憾ナル點多シトセズ、社會情勢ハ産報結成當時ト現在ニ於テハ格段ノ相違アルヲ以テ眞ニ強力ナル組織ト陣容ニ改メ、勤労階級ノ總意ヲ盛り強カナル実践活動ニ乗出ス事

五、其ノ他

1、不急ノ行事、無意味ナル見学、文書ニ依ル頻繁ナル照会等依然トシテ生産ヲ阻害スルモノ多シ、特段ノ注意ヲ願度シ

2、應召入営者ノ手當、出勤率、算定方法、長缺者ノ意義、空襲時ノ労務管理對策、新規應徵者ト雇傭契約ノ問題等解決スベキ問題山積ス、速カニ解決方考慮サレ度

二〇

一、産報組織ト會社組織トノ調和ニツキ再檢討ノ要アリ

産報業務ト會社業務トノ區分及立案、指揮系統、不明瞭等會社經營方針ト産報運動方針トノ調和連絡ニツキ更ニ工夫ヲ要スベシ

二一

一、國民徵用令ト労務調整令ノ一元化

1、現員應徵士ニシテ徵用解除セラレタル場合ハ労務調整令ニ依ル解雇認可申請ハ不要ノ如キ措置ヲ講ゼラレ度

2、産業戦士ニ對スル物資ノ特配等ハ労務者ト限定セス之ヲ廣ク職員ニモ及ホシ以テ一段ノ勤勞意慾昂揚ニ資セラレ度

3、工場附屬購買所ノ確認

4、愚質勞務者ノ根本源泉的取締



無届長期欠勤者、法令違反者等ニ對シテハ嚴重處罰ノ趣ナルモ之レガ急速ナル實現ヲ望ム。

二二

一 非軍需工場ニアリテモ一定規模以上ノモノニハ重要事業場勞務管理令ヲ適用セシメ、幹部ノ皇國勤勞觀ニ對スル認識不足乃至煩被リ主義ヲ一蹴、法令ノ強制下ニ勤勞管理ノ徹底ヲ期シ度シ

二 最近地方ニヨリテハ當局ガ非軍需工場ヲ過度ニ輕視乃至無視シ従業員ニ對スル特別配給品ガ皆無ナルハ未ダシモ甚シキハ防空壕造設、防空演習等ニモ除外スル等ノ非常識行政ヲナスノ事實アリ

之等工場従業員ノ勤勞意欲ヲ削減、退職ヲ誘致シツ、アリ、カヽル非常識ハ至急是正ヲ要ス。

三七

二三

一 産業報國運動ハ從來一般的一律的ニ組織活動並ニ事業活動ヲ行ヒツツアルガ産業報國運動ノ具體的徹底ヲ期スルタメニハ各種産業毎ニ之レガ特殊性ニ應ジテ企畫ヲ樹テ適切ナル勤勞活動ヲ実践セシメネバナラヌ

三八

敘上ノ意味ニ於テ産業別部會ヲ設置セラレタコトト忌料セラレルノデアルガ其ノ活動不活潑ナルハ誠ニ遺憾ニ存ズル次第ナリ。

此ノ意味ニ於テ其ノ事業活動ニ於テハ各産業別ニ産業別部會ヲ活用シ各産業別ヘ交通業其他ノ特殊性ニ即應スル施策ヲ講ジ産業報國運動ノ進展ヲ圖ラルル係切望スルモノナリ。

二四

一 勤勞行政ニ對スル要望

中小工場ハ概シテ順調ニ進捗シツツアルヤニ見ラル、モ大工場ハ組織ト機構トニ支配サレ人材ノ不足ト道義的皇道精神ノ欠如サレアルハ甚ク遺憾ノ極ナリ、又指導者ノ個人主

義的懸念ニ委不懸々ニシテ從來ノ英米的營利經營方法ヲ未ダ改メザル概アリ察急而檢テ
ノ要ヲ痛感ス

口ニ時局ノ重要性ヲ説キ戰時立法ヲ利用シテ會社政策ニ盲從セシメントスル勤勞行政ハ
決シテ要ヲ得タルモノトハ言ヒ得ナイ之等ニ對スル從業員ノ不平モ又大イニ警戒ノ必要
アリ

三 産報組織ニ對スル厚望及意見

1 地方支部組織ノ改革及強化

現在ノ地方支部ハ産報運動當初ノ過渡的ナ組織機構ニシテ其ノ実權ハ官廳ニアリ眞ノ
産業報國運動ハ産業人自身ノ反自ト各々ノ職場ニ於テノミアルノデアリ之ヲ指導額
據スルノ官廳ヲナケレバナラ又故ニ現在ノ地方支部ノ如キ義務的ナ事務取扱々各單
位産報ノ報告ヲ棄捨スルコトヲ主トセルガ如キ産報運動ヲ改革シ民間産業人ノ實質的
実行組織トシ生産及勤勞行政ニ對スル強カナル権力ヲ賦與スルコト

2 會長及支部長ハ地方長官トスルモ實際的事業遂行ト事務ノ處理等ニ對シテハ民間各
單位産報ヨリ適材者ヲ選出セシメ責任ヲ以テ其ノ事業ノ完遂ニ當ラシム
三九

3 警察部長及署長等ハ其ノ監督者トシ相談役及顧問ノ名義ニテ會議ニ與リシ訪問ニ應

ズルモノトセシム又使用事務員ノ如キモ退職官吏ノ重職ハ避ケ民間ヨリ適任者ヲ選拔
使用シ眞ニ官民一体ノ実ヲ擧ゲルヤウナスコト

三 單位産報ニ對スル意見及希望

(1) 單位産報ハ有名無実ナリ

單ニ名稱ハ存在スルガ事実ハ諸官省及中央本部ノ通牒及文書ノ取扱事務ヲナス機関ナ
リ

(2) 厚生省ノ勤勞局新設ニ擬ヘ勤勞部ノ設置ガ各工場ニ見受ケラレ産報ハ其一係リニ過
ギザル概アリ

(3) 会社ノ社長重役等ニシテ産報運動ニ理解アルモノハ中小工場ニシテ永年苦闘セシモ
ノ或ハ大工場ナレバ余程ノ苦勞人重役デアリ 普通ノ重役ヤ中間指導者ハ職制

以外ニ何等カノ組織ノ存在ハ却テ邪慮ニ思フノデアル 厚生省ヤ中央本部ヲ免ヤ角言フノ
テ唯追隨シテ形ダケ置クニ過ギナイ

(4) 諸官省並ニ本部支部等ノ通牒ニ對シテハ係員ニ命ジ程良キ報告書ヲ作製シテ提出ス

ルモノナリ

- (木) 従ツテ従業員ノ産業報國會ニ対スル觀念ハ余ク薄弱ニシテ何等ノ統制力等全然ナシ
- (ハ) 中央本部ノ指令ニ依リ組織機構ト規則ヲケハ作製シテ一様報告セルモ其運営ニ就テ見ルベキモノナシ、但シ質問等ノ場合ハ出来得ル限り實際ラシク答辯スルモノナリ、
- (ト) 懇談會ノ開催ニ就テハ必要ニ應ジ開催スルモノナルガ成可之レヲ避ケツ、アリ、生産増強ヲ絶叫サレツ、アル時多クノ指導的位置ニアル人又ハ直接生産ニ従業セル者ガ例ヘ一時間ナリ共費ス時間ハ生産ニ対シ却テ低下セシメルト言フノデアル
- (チ) 又例ヘ産報事務所ヨリ事業遂行ヘ生産増強運動ノ如キ、指令ガ公長ノ命ニ依リ通産サレタル場合等職制ノ権能ニ依リ個人ノ利益ヲ為メニ利用シ統一の指令ニ應セザル場合ハ應々アル

(ウ) 産報ヨリノ物資ノ配給ニ付テモ会社機構ヲ利用シ配給率則チ之ヲ指揮者ノ勝手次第ニナシツ、アルコトハ常識的ナリトシ為メニ従業員ノ不平不満等モ正へ難キモノガアル
 (例ヘハ酒、菓子、煙草等)

(又) 其他数々アルガ右ノ様ナ状態ニシテ其内容ヲ検討スルニ由々敷モノアリ下層従業員

ノ思想ノ善悪指導ハ結局會社上層階級ノ個人主義的米英思想ノ知ラスノ現ハレニ過ギズ唯時局ト言フ國家的責任觀カラ默々トシテ働ライテ居ルノテアル日本人、日本人タル國民性ハコ、ニアルト思フ裏ニ教育ノ必要ハ下層従業員ヨリ上層部ニヨリ淺學非才ノ労働者達程眞面目ナルコトヲ認識スベキデアル、

四 單位産報ノ強化要望

- (イ) 會社ノ職制ト産業報國會ノ部隊組織機構トヲ一元化シ眞ニ事業一家ヲ實現化スルコト
- (ロ) 産報事務局ヲ正式ノ会社職制ノ最高機関タラシメ其ノ下ニ現会社職制ヲ置キ生産管理ノ樞軸トスルコト
- (ハ) 各部課長タルモノハ部隊長ニシテ重役會議並ニ産報最高首脳部會議ノ命ニ依リ各自受持ノ部所ヲ擔任スル
- (ニ) 重役會議ノ決議事項ハ産報常任委員會又部隊長會議ニ社長又ハ常務取締役ヘ産報會長及副會長)ヨリ報告シ会社ノ事業ノ經由、並ニ運営ノ方法、現況等ヲ知悉セシメ部隊長(部課長)ハ更ニ所屬部隊員ニ対シ出来得ル範圍ニ於テ報告セシメ全従業員ノ協力

ヲ求メ産業一休事業一家ノ実ヲ遺憾ナク發揮セシムルコト
即チ從來ノ從屬的有名無実的ナ存在ヲアツタ産報機構ヲ会社ノ主幹的ナ表面組織トナシ
生産ニ対スル絶対的主導權ヲ樹立シ陸海軍商各省並ニ中央本部ノ一体的監督指導ノ下
ニ營利的經營方式ヲ根本的ニ廢除シ眞ニ決戰体制ニ即應セル純日本式戰力増強体制ヲ
確立シテ聖戰完勝ヲ期シ一日モ早ク聖慮ヲ安ジ奉ランコトヲ切望シテ止マザルトコ
ロナリ

二五

一 作業上絶対ニ必要ナル作業服、手袋、地下足袋等ヲ第一ニ支給出来ルヤウ一般民衆ヲ
抑制スルコト

二 既ニ過度的存在トナリタル産報組織ヲ解消シ勤勞根本法一本トスルコト

四三

四四

一、勤勞行政並ニ勤勞管理ニ関スル件

勤勞行政ニ於ケル徹底ハ徹底運用ニ盡クベキモノト思フ、勤勞管理モ亦總テ茲ヨリ充足スル過渡的時代ニ於テ已ムヲ得ザルコト、思フガ勤勞行政ニ於ケル自由主義的殘滓ノ多キヲ認メラルル事ハ遺憾ナリ、特ニ事業經營体ノ組織運営方針ト勤勞トノ相互關係ニ於テ然ル様デアル

二、産報組織ノ問題

産報ノ組織ニ付テハ根本的ニ検討スルノ必要アル事ト思フ、其ノ前提條件トシテ産報運動ノ本質從テ其ノ任務ノ確立ニ関シテ再検討ヲ要シ其ノ根本方針ニ應スル改組ヲ必要トスル

産報運動ヲ精神運動ニ終始セシムルナレバ止ム

直接生産ノ能率興スルモノトスレバ現在ノ組織ハ改メラルベキモノト思フ

事業現場ノ實際ニ於テ現在産報組織ナルモノハ全ク生産行程ト遊離シ唯産報ナル組織ガ

四五

形式的ニ存在スルト云フニ過ギナイ状態デアル此ノ組織ニ依テ何等ノ活動モ事業ニ遂行

サレテ居ナイ、此ノ状態ナレバ職場事業組織ト別ニ更メテ産報組織ナルモノヲ別ニ作ル

必要ハ無イト思ハレル、何レニシテモ産報ノ組織ナルモノハ職場ノ事業組織ト密接ニ関連セシメルカ又ハ一歩進メテ全ク一致セシムベキモノト思フ

現在デハ産報ノ本部ニテ組織ノ準則ヲ作成之ヲ鑛山工場、会社ノ單位産報組織トシテ鑛山長、工場長、会社々長ノ生産事業經營組織ト別個ニ山長、場長、社長ハ又自身別個ノ人格(單位産報ノ会長)トシテ之ヲ組織運営セルコトガ尙遠ヒテアル

即チ産報本部ハ山長、場長、社長ヲ産報本部会員トシテ之ト密接ナル連絡ヲ取り之ニ對シテ單位産報ノ長トシテ自己ノ職場ノ産報組織ヲ一任セシムル、而シテ之等ノ長ハ自己ノ實際生産遂行上ノ必要ニ應ジタリ事業經營、生産組織トノ脱ミ合セニ於テ單位産報ノ組織ヲ作ル事トスル(之ガ爲ニ其ノ組織作成、便宜ニ供スル爲メ産報本部ニテ準則ヲ作ル、例ヘバ以前本部作成ノ部隊組織ノ如キモノハ可ナリ)然スレバ之等ノ單位産報ノ組織ハ産報運動ノ組織デアリ即チ生産組織トシテ直接生産ニ活動スルコトガ出来ル事トナ

ル

以上ノ具体組織ヲ周到、實際的ニ成立セシムル事ニ依テ産報ノ組織問題ハ盡キルト恐フ。

B 北 學 工 場 委 員

1. 勤勞行政、勤勞管理、産報問題等ニ関シ意見、要望對策、不平不滿等ニ付テ只現在ノ如ク勞務官ノ員數寡少ニシテ一人ノ勞務監理官ガ多數ノ工場事業場ヲ受持ツハ其ノ指導誘掖ニ遺憾ノ點多カルベシ、サレバ一勞務監理官ノ擔當ハ三工場ヨリ多カラザルヲ本則トシ少クトモ毎週二三日ハ其ノ工場ニ出張シ得ル様セラレタキコト
2. 勞務監理官亦事務ノ未梢ニ走ルコトナク勤勞管理ノ真髓ニ即シタル指導監督ヲ而モ力強ク推進セララルル様致サレタキコト
3. 時局下勤勞管理ノ重要サハ今更贅言ヲ要セザルモ事業主以下會社主腦部ノ之ニ對スル關心ニ物足ラヌ感今尚拂拭シ得ラザル所抄レトセズ
4. 陣頭指揮テウ言ハ時代ノ寵冠ナルモ其ノ定義及方法ニ関シ明答ヲナシ得ルモノ寡シテ幾人アリヤ、盟邦獨逸ニ於テハ「國民勞働秩序法」中ニ所謂「陣頭指揮者訓」トモ稱スベキヲ明示シ居レリ、「皇國陣頭指揮者訓」樹立ノ要アルヲ痛感ス
5. 生産管理ノ圓滿遂行ノ素因ノ大半ハ勤勞管理ニ負フモノナルヲ以テ單ニ勞務係管ノ一部ノ者ニ委ヌベキモノニアラス宜シク工場長以下現場ノ主腦部ガ盡ク勤勞管理者ヲラザルベカラズ
6. 産報問題ニ関シテハ府縣及地方支部産報ハ目下主トシテ物質配給ニ没頭シ居ルノ狀態ナリ、單に産報亦サシタル活動ヲナシ居ラザル様思ハル、須ラク産報ノ本領ニ則リ本筋ノ特質發揮ヲモ願ハシキコト
7. 産報運動ト勤勞管理トノ相關性ニツキ工場、事業場ニ於テ之ガ渾融ヲ如何ニスルヲ最モ適當トスルカ之ヲ例セバ勤勞部ノ如キ名稱ヲ廢シテ産報部トスルヲ可トスルカ、將又現状通り勤勞部ノ而建ヲ可トスルカ等ノ頗相當アリト思ハル

提

案

○ 電 機 會 社 委 員

勞務調整令第二條適用工場ノ範圍擴張

理由

現在勞務調整令第二條ニ依ル指定工場ハ略第一種該當工場ノミニシテ第二種工場以下ノ工場ニアリテハ其ノ特狀ナキヲ以テ何レモ無慮ノ退職ニ依ル從業者ノ減員ニ慮ミ且ツ之ガ爲軍需品ノ生産ヲ著ルシク阻害セラレツヽアル現状ナリ、勿論自己都合ニ依ル退職等ノ際ニハ勞務手帳ノ留置ヲナシ得ル規定存スルモスレトモ左程実効アルモノニ非ズ、サレバ少クトモ第一種工場ニ準スル程度ノ重要工場等ニ並之ガ指定範圍ヲ擴張シ無慮義ノ異動ヲ防止セザレバ軍需品生産ノ飛躍的増強ヲ期シ難キコトヲ痛感スルモノナリ、尚他而前述ノ手帳ヲ留置セラレタル退職者ノ闖就職闖雇入等ノ取締ヲ相當嚴重ニ勵行セザレバ却ツテ事由ナキ退職者ヲ激増セシメ軍需生産ヲ阻害スル結果トナルヲ以テ此點特ニ留意セラレタシ

現案

有閑未婚女子ノ工場就業ヲ觀獎スルト共ニ他方勤勞協力令発動ニ際シテハ特ニ之ガ活用ヲ計ル如ク留意セラレタシ

四九

理由

五〇

現在我國ニ於ケル有閑未婚女子ノ數ハ相當莫大ナル數ニ墜セリ、其ノ原因ハ彼等自身ノ無自覺ニ基クニハ非ズシテ寧ロ父兄ノ因循固陋ニ基因スルモノニシテ人的資源ノ不足ヲ痛感セラレツヽアル今日洵ニ悲シムベキ現象ナリ、サレバカ、ル弊風ヨ一掃シ一婦女子ト雖モ徒遊スル者ナカラシメンガ爲適當ノ機関ヲ設ケテ彼等ノ工場就業ヲ勤獎スルト共ニ他方亦勤勞協力令ノ発動ニ際シテハ彼等ヲシテ相當長期間(少クトモ六ヶ月乃至一ヶ年位)ノ協力義務ヲ負ハシムルコト所要ナリ、卑見ニ於テハ女子徵用制ノ実施ハ時間尙早ナリトスルモノナルモ、カ、ル程度ノ就業義務制ノ強化ハ現段階ニ於テハ決シテ妥當ヲ缺クモノニ非ズト思惟ス、特ニ重工業関係方面ニ於テハ航空機關係工場、電氣機械器具製造工場等ニ於テハ相當役等ノ進出スル作業部門ヲ有シ既ニ之ガ就役ヲ豫想シテ機械設備作業場設備ノ変更及至創設ヲ完了セル工場モ多數アル現状ニ付極力彼等ノ活用ニ留意セラレシムルコトヲ望ム

提案

提案

一、稼働率及能率増進ノ爲ニスル手當支給範圍ノ擴張

案内容ノ説明

稼働率及能率増進ノ爲メニスル手當ハ法規ノ上ニ於テハ地方長官ノ承認ヲ受クル時ハ支給シ得ルヲ原則トスルモ之ガ適用ニ當リテハ、管理工場及五大重點産業ニ該當スル工場等ニノミ限定セラレ其ノ有資格工場数ハ全國ニ於テ〇〇工場ニ過ヤザル現状ニ付之ガ適用範圍ヲ幾分擴張シ右ニ準ズル一部重要工場ニ於テモ之ヲ支給シ得ル如ク緩和セラレタシ

理由

勤勞意慾ノ昂揚故ニ作業能率ノ増進ヲ計ルニハ精神的面ヨリスル方法ノミヲ以テシテハ其ノ効些ナキヲ以テ他面亦收入増加ニ依ル方法ヲ加味セザルベカラズ、勿論賃金ノ増加ハ一應性インフレヲ誘發乃至助長スル懸念ナキニ非ザルモ、増加收入ノ一部ヲ福利貯蓄等ニ振向ケシムル等適宜ノ措置ヲ講ズル時ハ其ノ弊ヲ相當程度防止スルコトヲ得ベシ、ヨシ斯カル弊ヲ幾分惹起セシムルコトアリトスルモ刻下喫緊ノ要事タル軍需品増産ノ目的ヲ達スルコトヲ得バ其ノ弊ヲ横ヒテ尚餘アリト言フベシ、殊ニ此ノ方法ハ單ナル増給ヲ行フモノニ非ズシテ、現実ニ増産ノ目的ヲ達シタル時ニ於テ始メテ増加支給ヲ行

五二

フモノナレバ、最モ宜ニ適シタルモノト言フベシ、サレバ之ク適用範圍ヲ幾分擴張シ前述ノ重要工場ニモ適用セラレンコトヲ望ム

提案

一、七曜制ノ廢止並ニ之ニ伴フ休日ノ改正

案内容ノ説明

昨日稱呼ニ併用スル七曜制ヲ廢止スルト共ニ官衙、學校、銀行、會社等ニ於ケル休日同教ヲ減少シ左記ノ如ク改ム

(一試案)

一、定休日 一毎月三回 一日、十日、二十日等

(但シ工場等ニ於テハ一日、十五日等トスルモ可)

一、臨時休日 一四大節及氏神祭禮當日(其ノ他ノ祭日ハ休マズ)

理由

七曜ノ制ハ單ナル改米模倣ニ依ル陋習ニシテ何等意味ナキノミナラズ土曜半休、日曜全休等ノ慣習ニ至リテハ事務ノ停滞、生産ノ阻害ヲ來スコト多大ナルモノアリ、殊ニ決戦



体制下ノ現段階ニ於テハ毎月四回乃至五回派ノ休日及半休日ヲ設ケル等ハ以テノ外ナリ、殊ニ現時大多數ノ工場等ニ於テハ其ノ作業時間數ノ長時間ニ亘ルニ拘ラズ、毎月二回ノ休日制ヲ採用セルヲ見レバ之ガ改正実施ハ何等至難ノ業ニ非ズ、此點官公吏等ハ率先垂範ノ実ヲ示ス上ニ於テモ洵ニ有意義ナル措置ナリト信ズ、定員減少等ニ依リ事務ノ停滯ヲ來セル現狀ニ於テ特ニ而リト云フベシ、若シ七曜ノ廢止困難ナリトスルモ土曜半休ノ廢止祭日ヲ休日トセル場合ニ於ケル其ノ前後ノ日曜休日ノ取止メ等ハ是非共實行スベキモノト信ズ

紡織工場委員

賃金統制令ニ於テ紡織工業ハ他種工業ニ比シ賃金公定著シク低廉ニシテ、並時、急激ナル物價昂騰ト共ニ、生活ノ不安益々深刻ヲ加ヘ彼等ノ關心ハゴノ點ニ注ガレ居ル現狀ニ於テ、勤勞意欲ノ昂揚ヲ言ハスルモ、大地ニ根ヲ張ラザル單ナル理論ニテハ效果望ミ難シ、勤勞管理ニ関シテハ我紡織工業ハ過去數十年來、他ノ及バザル眞剣ナル努力ヲ拂ヒ、且ツ

五三

五四

自信ヲ有シ居タルニ並時他種工業ノ段眼ト共ニ、此モスレバ、現サレツツアル次第ニテ、全的ニ現在ノ生活不安ヲ除去スル事ヲ望ムニ非ズ又望ムベキニ非ザルモ、現在ノ如ク定期昇給ヲ行フニモ制限ヲ超越セントスル狀態ニテ、賃金統制令ニ於ケル平均時間割賃金ヲ改正シ最低位ニ在ル紡織工業従業員ノ生活不安緩和ノ直ヲ講ジ以テ勤勞ニ全カク傾注シ得ル如クスル事最モ緊要ナリト信ズ

尚最近岡山ハ、三菱重工業航空機工業、立川航空、任友通信等、新設或ヒハ紡織工場ノ航空機工場へノ轉換ト重工業都市へノ変貌誠ニ急激ニシテ、賃金統制令ニ於テ二級地ニ指定サレ居ルモ此ノ際一級地ニ変更サレシコトヲ要望スルモノナリ

機械製作所委員

1. 勤勞行政ニ付テ

勤勞行政ハ決シテ小手先ノ問題テハナクテ皇國勤勞觀ヲ確立昂揚スル所ニナケレバナラヌト思フ、コノタメニハ宗教、教育、政治、財政各部門ト密接ニ連絡提攜ガナケレバナ



ラス、然ルニ現状ニ於テハホトンドソレガナク各々所管ノカラニハイツテ相對立スルヤ
ウナ感ツサヘモナキニシモアラザル感アリ、即チ団体的個人主義ヲ官廳自ラガ先ヅ率先
打破セラレテ民間ニ範示スルトイフヤウニ御願イダシタイ

2. 勤勞管理ニ付テ

勤勞管理ノ要點ハ事業經營ノ組織形態カラ技術及ビ所謂勤勞管理ノ諸事項ト並ニ仕事場
ノ物的諸條件ニ在ルマデヲ悉ク正シクスル事デアルト言ウテ良イト思フ
即チ言ヒカヘレバ工場ノ全分野ノ事項ニ一貫性ガ必要デアル、然ルニ現状ニ於テハコノ
一貫性ニ甚ク缺ケテ居ル、コノニ勤勞管理ノ実ノアカラナイ大キナ原因ガアルト思フ
3. 産報問題ニ付テ

皇國勤勞觀ヲ説キナガラ各工場ノ実狀ガソレト相反スル制度ノマ、デアツタノデハアマ
リ效果ガナイ、ドウカ産報ノ力ヲ以テ前項ニ申シノベク諸君ヲ正シテ勤勞觀ニ即シタ制
度ニ漸次変更スルヤウ御努力願ヒタイ

五五
五五
F 金 属 工 業 會 社 委 員

1. 勤勞行政、勤勞管理等ニ關スル件

(1) 勤勞行政ニ關スル意見ハ、曰ク監理行政ノ一元化、曰ク報告書類ノ簡素化、曰ク下
級官廳ヘノ權限委任、曰ク許可ノ迅速化、等々殆ドソノ論ズベキハ論ジ盡サレタルノ
觀アリ

今更屋上屋ヲ架スルマデモアラス、只管ニソノ実行ヲ鶴首シテ待ツノミ、強カナル実
踐ヲ切望ス

(2) 勤勞管理ニ關シ目下徐々ニ重大化シツ、アル問題ハ職員工員ノ差異ナリ、職員工員
トノ間ニアル程度ノ一線ガ引カルベキハ勿論ナレド、職員工員一体化ノ緊要ナル今日、
工員ニ甘ク職員ニ厳シキソノ處遇上ノ差異ガ却ツテ工員ノ勤勞管理ニ面白カラザル影
響ヲ與フル場合ナキニシモアラス

(1) 重要事業場ニ於テハ工員給與ニ關スル賃金統制令ハ殆ドソノ適用ヲ除外サレ生産
増進上運用ノ妙ヲ發揮シ得ルニ反シ、職員給與ニ關スル会社經理統制令ハ重要事業
場ニ於テモノノ儘適用ケレ臨機應変ノ妙ニ缺クル場合尠カラズ、部分的ニソノ適用

用ヲ除外スベキニアラズヤ

(2) 現場職員ニ於テハ工員ト殆ト同程度ノ労働ニ従事セルニモ拘ラズ夜勤食料等ノ配給ニ於テ一般事務職員並ノ取扱ヲ受クルニ過ギズ、現場職員ニ限り均等にシムルヲ適當ト思料ス、而シテコノ考ヘ方ハ決戦増産意識ノ昂揚滲透ニ伴ヒ一般職員間ニ付テモ濃厚トナルベク適宜府労政課等トモ交渉ノ要アリ

G 鑛 山 事 業 場 委 員

今日直キニ決戦ヲ断行セネバナラ秋次ギ次ギニ各方面ヨリ調査、研究、報告等繁日ナキ事
車務ノ複雑化ハ現今ノ如キ手不足ノ折柄生産増強ニ支障ヲ來タス事妙ナカラザル次第ニ御
座候

1、現在行ハレツ、アル各方面ノ勤労行政ヲ統合一元化シ行政ノ簡素ヲ圖ルト共ニ能率ノ
上昇ヲ企圖スベキナリ

2、鑛山ノ如キ特殊地帯ニ存在スルモノニアリテハ尠クトモ一切ノ生活物資ハスヘテ生産
五七

者若クハ配給統制会社ヨリ直接配給セラル、事ヲ要望ス、生産物資ノ配給ハ労働力ニ正
比例スベキモノト信ス
五八

現行ノ配給統制ハ此點頗ル遺憾ナリ一足ラザルヲ憂ヘズ等シカラザルヲ憂フレ山間僻遠
ノ地ニアル鑛山ノ如キハ都會地又ハ利便ノ地ニアル者ヨリハ若干量ヲ加算配給シテコソ
各種ノ事情ヲ綜合シテ寧ろ公正ナルベキニ事実ハ往々其反對現象ヲ來スハ洵ニ遺憾ナリ

H 製 鋸 所 委 員

先ツ勤労行政ニ付テハ昨年以來官廳方面ノ事務簡素化が断行サレソノ成果モ見ルベキモノ
アリ

然レドモ尚工場事業場ノ事務ニハ多数ノ人員ヲ要シ一層ノ簡素化が要望サル、所以ナリ
コノ際監督行政ノ一元化ヲ計リ管理工場ニツキテハ凡テノ職權ヲ單大臣ニ委譲シテハ如何、
男子ノ就業禁止、女子ノ代替等ニシテモ先決問題ハ事務ノ簡素化ニアリ、
素ヨリ工場内ニ於テモ鋭意努力致シヨルモ尚諸報告ノ重複臨時ノ調査等諸問題尙存シ得

ベキと思ふナリ

今ヤ勤労行政ハ重ナル監督的事務ハ之ヲ出来ルダケ壓縮シ積極的ニ實際的ナル施策ノ面ニ
迄進出シ以テ生産増強ノ槓桿タルベキノ秋ト思料ス、先般ノ地方行政協議会等モコノ方面
ニ迄ノ進出ヲ待望サレ、所以ナリ

次ニ産報問題ニツキテハ之ニ公法的性格ヲ與ヘソノ組織等ヲ明文化スルハ固ヨリ着フハ
クモ尚企業経営体トノ關係ヲ如何ニスルヤ問題ナリ

現在産報ノ組織ガ殊ニ大工場ニ於テ振ハザルハ運般ノ事情ガ介在スルト同時ニ現実ニハ企
社工場主腦部ノ理解ガ足ラザルヨリモ寧ロ生産現場ノ把握ガ足ラザルニヨルト思料セラレ
蓋シ上カラノ劃一的ナル精神論ヲ以テシテハ容易ニ現場ノ理解ヲ得ルコト能ハズ精神問題
タルコトハ却ツテ眞象的ナルモノト結ビツクコトガ一層肝要ナリ

之現下ノ戦局ト結ビツケル明確ニシテ積極的ナル産報精神ヲ以テ凡ユル連動ヲ生産現場ニ
集中スベキ所以ナリ、而シテ之ハ更ニ進ニテ現場技術ヲ理解シ技術者ノ理解ヲ得ザル可ラ
ズ現場ノ指導者ハ技術者ナリ、コノ技術者ヲ生産管理者トシテ將又勤労管理者トシテ再教
育シ指導性ヲ與フルコト刻下ノ急務ナリ

五九

併セテ各地域各工場ノ特殊性ヲ充分理解シ劃一的施策ニ陥ルコトナク地域別單位産報別ニ決
定スヘキナリ、而シテ飽クマテ現場ヲ尊重シ現在生産ニ日モ足ラザル際苟モ生産ノ障害ア
ルガ如キコトナク之ニ協力精神的援助ヲ與フルト莫ニ慰勞配給等工場協力ニテハ不可能ナ
ル懸案ノ斡旋解決ヲ計ラシムコトヲ希望ス

六〇

最後ニ勤労管理ニツキテハ現在ノ問題及ビソノ對策ハ出シツクセル程アリ寧ロ論多クシテ
歸就ニ迷フ状態ナリ、要ハソノ実行如何ニ懸ルモ実行ノ場ハ結局生産現場ナリ茲ニ區々タ
ル問題ハ暫ク措キ例ヘバ缺勤率ヲ以テ勤労管理ノ良否ヲ云々スルハヨシトスルモ現在ハ何
ヨリモ生産能率ノ向上ガ第一ニシテ、ソレモ將來ノ問題タルニ非ズ今日ノ問題ナリ、コレ
ガタメニハアル程度ノ労働強化ソレニ伴フ缺勤率ノ上昇モ亦己ムヲ得ザル可ク又要員ノ喪
カナル充足ガ要望セラレ、所以ナリ

元ヨリ之ニ對シテハ恒久的施策ノ樹立モ忽ニスベカラズ能フ限り従業員ノ幾何ヲ除去スベ
キガ勤労管理ノ目標タルベキモ之ニハ勤労管理担当者ノ積極的ナル急欲ト相俟テ生産方式
ノ変更トカ女子ノ適職發見トカ現場ノ理解ガ肝要ナリ

之ヲ要スルニ事務技術ノ一体系化及ビソノ方策ガ何ヨリモ急務ナリト言ハザル可ラズ

一 官廳間ノ連絡ノ強化

同一事項又ハ類似ノ事項ニ付キ各官廳別ニ種々ノ調査、統計ヲ求メラレルガ之ガ緊急打
開ヲ求ム

三 工場ノ實際ニ對スル認識ヲ深メ法運用ノ妙ヲ發揮セラレタシ

現今各工場事業場共眞ニ國家目的達成ノ爲ニ全力ヲ盡シ自己ノ利益ノ如キハ全然考ヘテ
イナイ、故ニ會社側ノ意見ハ相當信用ケレテ可ナリ、官吏モ未ニナルニ從ヒ消極的ニシ
テ法文ノ解釋論ニ終始シ事無カレ主義、形式主義ニ陥入り易シ現実ノ事態ヲ直視シ法ノ
依ツテ來タル根源ヲ探究シ積極的ニ會社ノ實情ヲ極メ、眞ニ指導スルダケノ熱意又ハ加
徹ノ不足ヲ感ズ、會社ノ実情ヲ良ク聞キ法運用ノ妙ヲ發揮サレタシ

三、産報ハ「上カラノ命令機關ニシテ下カラ盛リ上ル意欲ナシ」ノ感深シ、勞務者ト離レ
夕産報ハ何物ナリヤ、産報自体「頭デツカチ」ノ感アリ、指揮者ノミニテハ仕事ハナシ
能ハズ、産報ノ機能強化ノ前ニ産報ノ再檢討ヲ要ス

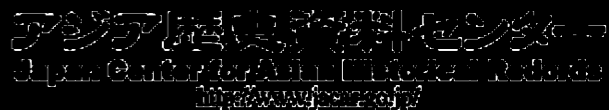
丁 事業會社本社委員

○ 徴用制度運用上ノ強化方法ニ就テ

新規徴用者ハ其ノ徴用先ニ於ケル職場ヲ唯一ノ己ガ住家否光榮アル死場所トモ心得、國
家ノ要請ニ依ル新シキ業務ヲ天職トシテ全身全靈以テ之ガ成就ニ努力シ、苟モ萬ノ職場
ヲ慕ヒ、去リシ生活ヲ恋フルガ如キ女々しい感情トハ断乎トシテ絶縁シ、馳レテ後己ム
ノ氣概ヲ堅持シテ事ニ當ルコト

新規徴用者ヲ迎フル徴用會社ハ神聖ナル目的ニ基キ國家ガ符ニ其ノ會社ヲ選ビテ大切ナ
ル國民ヲ託シタル點ニ思フ致シ、苟モ此ノ國家ノ殊遇ニ背馳セザルヤウ、其ノ應徴士ヲ
選スルニ當リテハ精神上ハ固ヨリ實際上ニ於テモ新規徴用者ニ對スルト同様ニ扱ヒ終生
責任ヲ以テ之ガ保護指導ニ任ズルコト

一 爲政者ハ徴用制度ノ運用ニ萬全ヲ期シ就中新規徴用者ノ取扱ニ意ヲ用ヒ徴用期間ニ付
テモ當初ヨリ之ヲ定メ或ハ之ヲ該當者ニ知ラシメ徒ニ里心ヲ起サシムルガ如キコトハ極
力ニ避ケ、勞々徴用會社ヲ指導懲戒シテ感謝ニ滿タサレ後顧ノ憂ナク國家總動員業務



ニ専心従事セシムルマウ大所高所ヨリ之ヲ誘掖スルコト

航空機会社委員

(イ) 管理工場應徴士ヲ他府縣ニ至ル協力工場ニ派遣スル場合厚生大臣ニ申請スルトナク
關係府縣間ノ協議ニヨリ実施シ得ル如ク事務簡捷ヲ望ム

(ロ) 協力工場應徴士派遣ノ場合現員、新規ヲ區別セス何レヲモ派遣シ得ルコトセラレタ
シ

(ハ) 作業服ノ配給ハ新規應徴士及新國民學校出身者入社ノ場合ニ限ラレ之カ補充交換ハ殆
ソト困難ナル現状ナリ又新規應徴士ノ徵用期間変更ノ場合ハ少クトモ新入社ト見做シ新
ニ作業服ヲ支給スルノ要アルモノト認ム

右ノ次第ナルヲ以テ作業服ノ増配ニ関シ特別ノ考慮ヲ望ム次第ナリ

(以上)

- 一、道産報ト鐵山部會ニ依ル命令系統ノ一元化
- 二、産報事務局ニ民間有志者ヲ選任
- 三、産報青年隊ト青年団ノ一元化

二、

- 一、中央本部ヲ内閣直屬トシ大政翼賛會ノ傘下ヨリ除外スルコト
- 二、産報組織ヲ法制化シ會費ハ之ヲ企業費ヨリ負擔支出セシムルコト
- 三、中央本部ノ組織ヲ縮小シ地方組織ヲ支部組織ヲ強化充實スルコト
- 四、單位産報ニ於ケル人的機構ヲ整備セシムルコト
- 五、常ニ職場ト産報運動ト遊離シツツアルガ如キ感ナカラシムルコト

六五

三、

- 一、優秀ナル講師ヲ日教ヲ惜マズ派遣願ヒ幹部ノ錬成ヲ成シ産報組織機能ノ意義ヲ知得セシムル事

六六

- 但シ講師ハ最も優秀ナルヲ必要トス
- 二、單位産報ノ産報擔當者(主トシテ勞務課所屬員)ニ對シテモ一層組織的且系統的ノ教育錬成ノ方法ヲ考慮願フ事

勤勞根本法ニ関スル件

一、

勤勞ノ國家性ト義務性ヲ強強シ勤勞者ノ人格ヲ尊重シ榮譽性ヲ明徴ナラシムルト共ニ生活ニ関スル國家的保障ヲナシ更ニ勤勞訓ヲ制定シテ法制化シ眞ノ皇國勤勞觀ヲ確立スルト共ニ表彰ハ特ニ顕彰ニシ徵戒又ハ徒ヲニ形式ニ捕ハレズ、嚴重ニ施行シ之ヲ單ナル

事業主ト從來ノ労働者タル勤勞者ノミヲ對象トスルコトナク其企業經營者ニ附随スル總テノ後業員ヲ包含對象トスルコト

理由

労働管理ノ実践カラ最近ノ勤勞状況ヲ詳サニ觀察スルニロデソ勤勞報國運動ト稱ヘ産業戦士ナリト空嘯イテハイルモノノ彼等ノ作業ヲ通シ生活ヲ徹シテ見ル時從來ノ功利的考ヘ方、利己主義ニ基ク賃金獲得ヲ目的トセル觀念カラ脱シ切れズ轉々トシテ功利ニ走ル有様ニシテ眞ノ勤勞觀ハ毫モ詭メラレザルハ洵ニ慨嘆ニ堪ヘザル所ニシテ、之ヲ根本的ニ是正シ舊來ノ労働僱傭契約ノ如キモノヲ廃スルト共ニ生活ニ關シテハ國家的保障ヲナシ企業家モ労働者モ共ニ誠實業務ニ服シ眞ニ皇國觀念カラ、ムクムクト盛リ上ツテクル力タラシムル事ガ急務ニシテ之ニハ勤勞ノ義務制ヲ強張シ之ニ軍隊ニ於ケル戰陣訓ノ如キ嚴重ナル勤勞訓ヲ制定之ヲ法制化シ表彰ハ大イニ顕彰シ從來労働者ノ曠ケル卑下感ヲ絶滅シ勤勞即人格ノ發露ナル觀念ヲ持タシメルト共ニ懲戒又嚴重ニシ卑クモ怠惰或ハ理由ナク休業シ或ハ轉業ヲナシ爲ニ生産増強ノ妨ゲヲナスガ如キ徒ハ体罰ニ處スル位ニセラレタシ

六七

ニ 企業ノ國家性ヲ明示セラルト共ニ根本法ハ普通法規上ノ法タルベキ法トシテ之ヲ統轄スル機關トシテ勤勞省ノ如キモノヲ設立シ從來ノ複雜多岐ニ亘ル労働法規ノ整理統合ヲ根本的ニ行ハレタシ

六八

三 勤勞ニ對スル根本法ノ制定ト共ニ企業ノ國家性ヲ明示スル企業法ノ制定並ニ現行諸法規全般ニワタリ自由主義思想ニ基クモノヲ改廢スルニ非ザレバ摩擦面ノミ多ク勤勞根本法ノ威力發揮不可能ナリ

三

當北海道ハ從來兵站部原料補給生産地タル重要位置タルヲ認識ス今日逼迫セル次戰時下ニ於ケル戰務ハ完成物資ヲ多量ニ完全ナル經濟的補給ニ依リ決セラレルモノト思慮ス依ツテ本道ハ其目的ニ最優位ナル條件ヲ具備セルニヨリ加工工業ノ一大發展ヲ期サナケレ



ハナラヌ、此秋ニ當リ氣候風土及一般生活ニナレタル少年勞務員ノ募集ニ當リテ思フ致ス
時従来残存少年産業戦士ハ量質共ニ洵ニ憂慮スベキモノガアリ此ノ状態ヲ視タル時ニ於テ
今年度並將來ニ於ケル割當決定ニ當リテハ民間加工企業者ノ意見ノ開陳ヲ希望シ最高機関
ニ具シ決戦下適正ナル割當指教ノ決定ヲ希望スルモノナリ。